

令和5年度 第2回静岡市自然の家運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年2月6日(火) 13時30分～15時30分

2 場 所 静岡市役所清水庁舎 312会議室

3 出席者

【委 員】

武田委員、加藤委員、遠藤委員、望月委員、青木委員、脇坂委員、服部委員、細川委員、  
(欠席者：森山委員、及川委員、佐野委員、櫻井委員、光後委員、菅沼委員)

【事務局】

〈教育総務課〉

本野局次長、渡邊課長、植村係長、増田主任主事

〈南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家〉

齊藤所長、岩科主幹兼次長、木下指導主事、坂本指導主事、鈴木主任主事

4 傍聴者 0名

5 議事

(1) 報告事項

- ① 令和5年度主催事業報告
- ② 令和5年度第1回運営協議会提言後の取組について
- ③ 令和6年度利用予定団体(令和5年12月末現在)
- ④ 令和6年度主催事業計画(令和5年12月末現在)

(2) 協議事項

「現在、静岡市唯一の自然の家として、『井川自然の家』の目指す姿や運営の在り方について」

## 6 会議内容

### (1) 報告事項

①②③④については、事前に資料を配布してあるため、事務局から説明後、質疑応答に入る。

#### 《③について質疑応答》

|      |                                                                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 武田委員 | 学校に直接広報していくとのことだが、どの範囲まで広報するのか。                                                                                                          |
| 事務局  | 広報範囲は、静岡市内の50校以上小学校。昨年から広報活動を行っており、今年度中に市内のほぼ全ての小学校に広報が完了する予定。                                                                           |
| 武田委員 | 学校側の反応はどうか。                                                                                                                              |
| 事務局  | 道路状況、大型バスの通行、車酔い等の懸念があり、他施設を利用する学校が多い。その一方で、井川自然の家の小学校利用が年間数件に留まる現状を伝えたところ、井川自然の家に来年度の利用希望を出す学校もあった。学校側にとって選択肢の一つになればと思い、引き続き広報活動を行っていく。 |

### (2) 協議事項

委員を2つグループに分け、①②のテーマについて、それぞれ協議を行う。

A グループ：武田委員、望月委員、脇坂委員、服部委員

B グループ：加藤委員、遠藤委員、青木委員、細川委員

①「ファミリーキャンプやソロキャンプ等、アウトドアレジャーに対する市民の意識やニーズは、どのように変化しているか？」について協議の要旨

- ・年齢層やアウトドアの熟練度によって、ニーズが大きく異なる。例えば、若年層は、施設の清潔さ、様式トイレや風呂が館内にある等の設備の充実さ、軽微な買い物ができること等が重要視される。また、アウトドア熟練者は、設備が整っていない自然を満喫できるキャンプサイトを好む傾向があり、井川自然の家はアウトドア熟練者の入門としての利用が期待できる。
- ・ボーイスカウトでは、野外活動は限りある設備の中で行いたい、入浴は館内の風呂を利用したい。また、荒天時に館内の食堂を利用できるとありがたい。これらの点から井川自然の家は利用の条件を満たしているため、ボーイスカウトの活動で利用するのに適している。
- ・コロナ禍で冬キャンプの需要が高まった。興津川キャンプ場のサイトでは、冬季の週末も利用客で埋まっている。トイレ等の設備がきれいで充実しており、客層は中高年が多く、関東圏から来る人もいる。冬キャンプは新しいニーズになるのではないか。

- ・井川自然の家は、夏場にヤマビルが発生する。子どもは被害にあうとトラウマになる可能性がある。あるので、ヤマビル対策をしっかりとすることでより利用しやすい施設になる。
- ・アウトドア需要は、グランピング等の高級路線と一般的なキャンプサイト等で二極化している。利用者によっては、テントを常設しているキャンプサイトしか知らない方もいる。
- ・テントサイト外で泊まれるようにするとアウトドア熟練者の需要があるかもしれない。

②「キャンプ場や自然の家など、自然体験活動に親しむことができる施設の在り様の多様化や求められる役割は、どのように変化しているか？あるいはどう変化していくべきか？」  
について協議の要旨

- ・商業的側面や観光的側面を強めるなら、プラネタリウムやスケート場を整備し、一般の方が広く楽しめる施設にするのはどうか。
- ・教育的側面を強めるなら、民間企業との連携を強めて、様々な体験活動を提供する。例えば、森林組合では木の伐採体験、スポーツショップではアウトドア用品の体験会が考えられる。
- ・昆虫や鳥類の専門家を施設に常駐させ、井川自然の家ならではの講座があると良い。
- ・一般の方には「少年自然の家」のイメージが強く、家族や個人で利用できることを知らない方が多い。施設の利用促進のためには、より広報をしていく必要がある。
- ・親としては、子どもに自然体験活動をさせたいが、自らが提供するの難しい。そこで井川自然の家を利用して、野外活動を通してマナー等を学べたらありがたい。
- ・野外活動で使用する薪を施設内に落ちている小枝等を使用しても良いとしたら、それらを見つけて拾うことも活動の一つとなり、面白いかもしれない。
- ・星空観察と同様に、鳥のさえずりが聞こえることも井川の魅力だから、強みとして PR すると良い。
- ・子ども向けの主催事業で、天文学や野鳥等の知識がある大学生を講師として活動プログラムを作ると、子どもは専門的な話を聞け、大学生は子どもと接することができ、相乗効果がある。
- ・井川自然の家までの移動が長いため、移動中も楽しめることを施設から提供すると良い。
- ・栄養バランスを考えた食事メニューを提案するのはどうか。
- ・スポーツ団体向けに、高地トレーニングができる環境に整備し、PR するのはどうか。
- ・井川本村との連携を強め、井川地域の文化に触れる体験があると良い。

令和 6 年 2 月 26 日 静岡市自然の家運営協議会  
議事録署名人

服部 巨顕